

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

※※2003年7月改訂(第4版、事務連絡等による改訂)
※2002年3月改訂(第3版、医薬安指示等による改訂)

貯 法：しゃ光・気密容器
使用期限：容器、外箱に表示

■ 68 ■

漢方製剤

ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒(医療用)

日本標準商品分類番号	
875200	
承認番号	(61AM)1139
薬価収載	1986年10月
販売開始	1986年10月

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者
 2. ミオパシーのある患者
 3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3: これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

組 成	本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス2.5gを含有する。 日局カンゾウ………6.0g 日局シャクヤク………6.0g	
	添加物	日局ステアリン酸マグネシウム、日局乳糖
性 状	剤 形	顆粒剤
	色	淡灰かつ色
	におい	特異なにおい
	味	わずかな甘味
	識別コード	ツムラ/68

【効能又は効果】

急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛

【用法及び用量】

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

※ 〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉
本剤の使用にあたっては、治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

【使用上の注意】

- ※ 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
高齢者(「5. 高齢者への投与」の項参照)
2. 重要な基本的注意
(1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
3. 相互作用
併用注意(併用に注意すること)

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トクロルメチアジド	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパシーがあらわれやすくなる。 (「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸及び利尿剤は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

(1) 重大な副作用

- 1) 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ※ 2) うっ血性心不全、心室細動、心室頻拍(Torsades de Pointesを含む)：うっ血性心不全、心室細動、心室頻拍(Torsades de Pointesを含む)があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、動悸、息切れ、倦怠感、めまい、失神等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) ミオパシー：低カリウム血症の結果として、ミオパシー、横紋筋融解症があらわれることがあるので、脱力感、筋力低下、筋肉痛、四肢痙攣・麻痺、CK(CPK)上昇、血中及び尿中のミオグロビン上昇が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ※ 4) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

- 1) 過敏症：発疹、発赤、痒痒等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
- ※ 2) 消化器：悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。
5. 高齢者への投与
一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与
妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
7. 小児等への投与
小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【薬効薬理】

痙縮モデルにおける筋疲労抑制作用

足底筋及びヒラメ筋に対する坐骨神経頻回刺激による筋痙縮モデルラットに経口投与したところ、筋疲労耐性能の亢進傾向が認められた¹⁾。

※【包装】

500g、5kg(500g×10)、2.5g×42包、2.5g×189包

【主要文献】

- 1) 中 井 由 佳・他：和漢医薬学雑誌, 13 (4) 356 (1996)

【文献請求先】

株式会社ツムラ 商品情報センター
東京都千代田区二番町12番地7 〒102-8422

